

今話題の検査！大腸CT！

◎大腸CT検査とは？！

大腸CT検査は、内視鏡やバリウムを使わずに、大腸内部を隅々まで観察する事ができる検査です。“バーチャル大腸内視鏡検査”や“CTコロノグラフィー”と呼ばれたりすることもあります。

大腸を炭酸ガスで膨らませてCT装置で撮影・画像処理を行う大腸の検査です。

《長所》

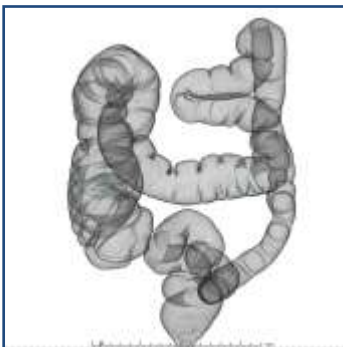
- ◆ 検査時間が **10分～15分と短い！！**
- ◆ 体外からの撮影であるため、**苦痛が少ない！！**
- ◆ 大腸内視鏡の挿入が困難な方でも**検査が容易！！**
- ◆ 腹部のCTを撮影するため**大腸以外の情報の把握が可能！！**

《短所》

- ◆ 病変の色や固さの情報が得られない。
- ◆ ポリープなどを見つけた場合、採取が出来ないため、改めて大腸内視鏡検査を受ける必要がある。
- ◆ 平坦な病変や5mm以下の病変の抽出精度は大腸内視鏡検査より劣る。

◎こんな画像で診断します！（当院で撮影された画像）

《注腸類似像》 《仮想内視鏡像》 《VE+MPR画像》 《仮想切除標本展開像》



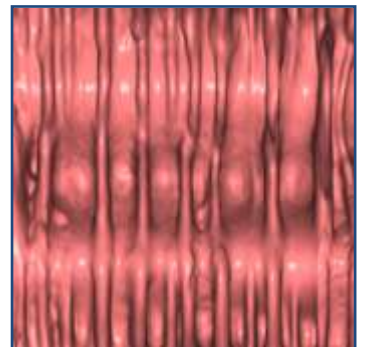
バリウムを肛門から入れて検査した場合に類似した画像が得られ大腸全体の観察ができます。



内視鏡をしているかのような画像を360度回転して好きな角度から観察することができます。



仮想内視鏡像に大腸の外の情報を追加したものです。大腸の以外の情報も得られます。



大腸を開いて平面的に表示した像です。大腸のヒダの陰にある小さな病変も見逃しません。

※但し、大腸内を診るため、前日から当日にかけて、検査用のお食事や下剤の服用等の前処置があります。

♪ お問い合わせ先 放射線科まで ♪
 ♪ 多摩南ミニ通信を入手されたい方は、患者支援センター地域連携部門まで ♪



今月の医療

子宮がんには2種類あることをご存じですか？

婦人科

子宮がんには**頸がん**と**体がん**があり、
発病しやすい年齢や危険因子が違います！



| | 子宮頸がん | 子宮体がん |
|------|--------------------|--------------------|
| | <p>子宮頸がん</p> | <p>子宮体がん</p> |
| 好発年齢 | 30～40歳代 | 50～60歳代 |
| 初発症状 | 接触出血(性交時) | 閉経後の不正出血 |
| 原因 | ヒトパピローマウイルス(HPV)感染 | エストロゲン(女性ホルモン)過剰など |
| 危険因子 | HPV感染が起こりやすい状況 | 高血圧、糖尿病、肥満 |
| | | 月経異常(排卵障害) |
| | | エストロゲン製剤(※)の長期使用 |

イラスト：KOMPAS（慶応義塾大学病院 医療・健康情報サイト）より

上記にお示しした好発年齢や危険因子をお持ちの方は、十分ご注意ください。

※エストロゲン製剤

更年期障害等の治療で用いられるお薬です。

～検診を受ける際の注意点～

公費で行われている市の検診（いわゆる子宮がん検診と言われているもの）は、頸がん検診であって、体がん検診は含まれておりません。50歳代前後で、月経が止まらないなど月経不順が気になる方は、必ず体がん検診もお受けください。

婦人科 医長 三田 俊二

☆当院は紹介制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。